

1. 会 議 名 総務文教委員会
2. 日 時 平成25年9月25日(水) 15時41分開会
16時29分閉会
3. 場 所 第2委員会室
4. 出席委員 牟田学委員長、出口徹裕副委員長、仮屋園一徳委員、
牛之濱由美委員、岩崎健二委員、木下孝行委員、
山田勝委員、濱之上大成委員
5. 事務局職員 議事係 牟田 昇
6. 説 明 員 ・企画調整課 課長 花木 雅昭
・財政課 課長 山下 友治
山元 正彦 課長補佐 児玉 秀則 課長補佐
7. 傍 聴 者 4名(竹原恵美議員、松元薫久議員、中面幸人副議長含む)
8. 会議に付した事件
・議案第61号 平成25年度阿久根市一般会計補正予算(第5号)
9. 議事の経過概要
別紙のとおり

審査の経過概要

総務文教委員長（牟田学委員）

ただいまから総務文教委員会を開会します。

ここで傍聴人に一つお願いがありますが、議事の進行上休憩をする場合がありますので、そのときは傍聴人は退場をお願いいたします。

それでは、本日の会議で付託になった案件は、議案第61号平成25年度阿久根市一般会計補正予算（第5号）であります。

ここで、日程についてお諮りします。

委員会の日程は、本日の1日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、本日の1日間といたします。

○議案第61号平成25年度阿久根市一般会計補正予算（第5号）

総務文教委員長（牟田学委員）

それでは、議案第61号を議題とします。

執行部の出席をお願いします。

（企画調整課、財政課入室）

それでは、議案第61号について審査に入ります。

課長の説明を求めますが、先ほど本会議で補足説明も伺ったところですが、ほかに説明をすることがあれば説明をお願いいたします。

花木企画調整課長

それでは議案第61号平成25年度阿久根市一般会計補正予算（第5号）について御説明申し上げます。先ほど本会議の中でも補足説明もございましたが、一部重複する部分もございますけれども説明させていただきます。

まず歳出予算について御説明いたします。予算書の8ページをお開きいただきたいと思います。第2款1項8目企画費13節委託料843万8千円は、にぎわい交流ステーション事業として実施している阿久根駅舎改修事業の工事監理業務の経費と広報活動用のポスター、リーフレットなどの作成業務に係る委託料です。工事監理業務につきましては、本工事が建築、電気、空調、給排水衛生設備など多くの工種が含まれていることから、施工に当たりその調整が必要なこと、また、駅舎が建築から60年余り経過し、老朽化していることから耐震診断を行い、建築物としての強度を確保するため耐震補強工事を合わせて実施することになっていますが、事前にすべての構造部材の状況を把握することは不可能でありますので、施工途中において補修の必要がある箇所が見つかった場合には、設計見直しや補修方法の検討を含め施工の見直しなども予想されるため、これらを適切に管理しスムーズな工事進捗が図られるよう経費を計上したものであります。また、広報活動資材については完成までに旅行会社などに事前に駅舎改修についてのピーアールを行い、ツアー企画に組み込んでいただくことや観光宣伝等で活用するなど、多くの観光客を呼び込む活動を行うために必要なポスター、リーフレットなどの作成経費を計上しました。15節工事請負費7,252万3千円の補正についてですが、本工事請負費においては駅舎本体工事に係る追加経費として5,852万3千円、駅前アプローチ整備工事など駅舎外構工事費として1,400万円計上いたしました。駅舎本体につきましては、当初阿久根駅の駅務室ほか制御機器のある部分など、鉄道運行に係る部分及び国庫補助事業で整備された多目的スペースを除いた部分について整備を行う予定でありましたが、64年ぶりの駅舎全面改修において、既存の部分を残したま

まの改修は事業効果を最大限に生かす観点から考えた場合、好ましいものではないこと。また、耐震補強については駅舎全体を一体のものとしてとらえていることから、一部を改修する場合であっても改修しない部分も一体として耐震補強を行う必要があることなどから、駅舎全体の改修計画に変更することとなったものであります。このことから改修面積においては約290平米から約460平米に170平米ほど増加しており、それにともない工事費が増加したものであります。そういうことで今回不足する工事費を追加させていただいたものであります。また、駅前アプローチなど外構工事については駅舎の整備と合わせ、駅舎完成までに一体感のあるデザインで整備を行う必要があることから、今回、追加提案させていただいたものであります。18節備品購入費については、駅舎のイメージに合わせて水戸岡氏によりデザインされた駅舎内に掲示する額、絵や物産展などの際に使用する販売台の購入経費を計上したものであります。

以上、駅舎改修に係る追加予算について、歳出の部分につきまして御説明させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

山下財政課長

それでは、歳入の部分につきまして、本会議での説明と若干重複する部分もございますが、財源の経緯等含めて改めて御説明をさせていただきたいと思っております。

予算書の7ページをお開きください。第13款国庫支出金2項1目総務費国庫補助金の補正額5,635万9千円は、国の地域経済活性化・雇用創出臨時交付金、いわゆる地域の元氣臨時交付金であります。この交付金は、地方の資金調達に配慮し、経済対策の円滑な実施を図るため、国において創設されたものであり、当初予算において1億8,310万円を計上しておりましたが、本市における第1次分として本年5月末に6億1,014万5千円の限度額の提示がございました。このことから当初予算計上分との差について、さらに財源としての活用を検討してまいりましたが、今回、にぎわい交流ステーション事業の財源として充当しようとするものであります。なお、この交付金につきましては、平成26年度までに活用すべきこととされておりますので、平成25年度においては引き続き可能な事業への活用を図るとともに、平成26年度の事業の財源として基金への積み立ても検討していくこととしております。次に、第18款1項1目繰越金の補正額2,798万1千円は、平成24年度の繰越金の決算額が確定したことにより、その一部を事業実施に必要な一派案財源として充当しようとするものであります。以上で説明を終わりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

総務文教委員長（牟田学委員）

課長の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

出口徹裕委員

面積が広がったということでもありますけれども、このそもそもの案についてですが、何案ぐらいもともと作成してこの案に決めたのか教えてください。

花木企画調整課長

案ということはデザインのことでよろしいですね。デザインにつきまして示されたものは1つでございます。

出口徹裕委員

その際ですね、執行部のほうからこういったものも盛り込んで欲しいというのは先に伝えたいうえで、それからまた出てきたものに対してここが足りないとか、そういった阿久根らしいところ、こういうところが必要だという言葉はかけられましたか。

花木企画調整課長

阿久根駅舎の改修につきましては、昨年12月からことし1月にかけてまず市民の方々へのアンケートを実施しております。それにつきまして、取りまとめたものにつきましてはデザインをお願いしています水戸岡さんにも伝えてございます。それと、市長の思いというか、

どういふものを望んでいるのかと、市民のアンケートを含めて阿久根市としてどういふ施設を整備していきたいのかということにつきましては、東京のほうの事務所にも何回か出向きましてデザインをされる水戸岡先生にはお伝えをしております。1回ということではなく複数回ですね。ちょっと手元に今、細かい資料をちょっと探してるんですけども、経緯等書いたものがあるんですけども。最初に水戸岡氏と駅舎に係る協議を行いましたのは今年の12月でございます。阿久根市として駅舎についての思いというのを話をさせていただきました。それから1月には東京のほうでまたお話しをさせていただいております。その後、デザインを実施されていく中で実際に協議をそれぞれ、実施設計を行う業者も含めて協議を行っております。回数としましては4月に1回、5月に1回、6月に1回、7月に1回、それから8月にも1回、ほとんど毎月というくらい出向きましてそういう協議を進めてきております。以上です。

出口徹裕委員

建てかえた場合と耐震補強をした場合っていうのを、何も検討せずに耐震補強をしたほうがいいっていうふうにはならなかったと思うんですが、そのときの比較した金額というのは出てますか。

花木企画調整課長

建てかえとそれから現駅舎を生かして改修することについての金額的な比較は試算を行っておりません。ただ、実際に建てかえるという形になりますと、ホームの絡みがあります。非常に経費としては、いわゆる今の駅舎を生かしたままで改修を行うよりも、非常に手間とそれからいろんな規制関係、ホームに絡んだ部分につきましては国土交通省との協議も多く出てくるということで、その中でやはり現駅舎を生かした形での対応が望ましいという結論が出たところでございます。

出口徹裕委員

手続等とかあるかもしれないんですけど、その差額がわからないままにやるべき事業ではないんじゃないかなと思うんですが。例えばそれが今の先ほどから話がありますように、途中に進める段階においてまだわからないところがあると。それに対しても今後見ていかないといけないところがあるから今の金額になってるんですよ、ある程度。それで、そのチェックというんですか、補修をしながらやっていくところも含まれてるといふところ、そこを修正しながらやっていくという認識で、その金額も入ってるということ認識でいいんですか。追加にならないという。

花木企画調整課長

どれぐらいのものが、どんだけ出てくるかというのは実際やってみないとわからないところでございますけども、枠としてはこの予算の枠で対応できるように何とか市としては対応していきたいと考えているところです。

出口徹裕委員

ということは、やっていかないとわからないと。結果的には建てかえたほうが、間取りとかについてももしかしたら新しく建てたほうが安く逆に済んだ可能性も出てくる、絶対高くないという認識でいいんですかね。そこは自信をもって言えますか、建てかえじゃなくて耐震をしたほうが絶対安いんだという、そこです。

花木企画調整課長

絶対という言葉はなかなか使いづらいと思うんですが、まず、今の駅舎の最初のスタートから考えますと、本会議の中でもお話があったとおり、駅の左半分の部分、多目的スペース、それから駅務室等含めたところはいじらないという、そういう契約でありました。ですから、もし解体をして行う、新しく建てかえるとなると、古い部分と新しい部分をつなぐというものも必要になってきます。そうしますと技術的にもそれが可能なのかということも出てまいります。ですから、経費的なところで、これは本当に素人的な認識かもしれませんが、そういうことを踏まえて考えると、すべて右側の部分を壊してホームのひさしの部分、それ

から左側の多目的スペース、駅務室の部分を残した中で、それに新しいものを建てかえてつなぐという形でいくと、やはり高くなる可能性があるのかなど、これは私のお話ですけれども。私だけではなく、やはりそこで協議を進める中ではやはり、数値的な試算はしておりませんが、意見としてはやはりそういう形のほうが高くなる可能性は大きいよという話ではしております。

出口徹裕委員

それは業者からだけですかね、それともほかの課とも話をした中でそういったような高くなる可能性はあるという話が出てきたのか。業者が言ったからそうなのか、そこはちょっとはっきりしてもらいたいんですけども。

花木企画調整課長

それは業者というよりも、デザインを行っていただいている水戸岡先生のほうからもやはり予算というものを考えていくにあたっては、やはり建てかえよりも改修、現施設を生かして改修をしたほうがより予算の効率的な使い方ができるんじゃないでしょうかという話ではしております。

出口徹裕委員

この話はたぶん平行線になるんで、次、ちょっと一つ。全体的な耐震補強という話が出ましたけれども、今、それでもまだ一部肥薩おれんじ鉄道の部分があるかと思いますが、そこについても耐震補強が同時になされる。その建物についても、一体ですから、建物についても一体でなされるからそこも耐震的には大丈夫という話になるんですかね。

花木企画調整課長

肥薩おれんじ鉄道の財産として残る部分は駅務室関係、それから多目的スペースになっている部分、これが財産として残る部分になりますけれども、ここについても一体として、一体的な建物の補強という考え方で補強は行うということになります。

出口徹裕委員

そうした場合ですね、単純に考えるとアロケのような感じになってしまうかと思うんですが、阿久根市とそれから国庫から出して、肥薩おれんじ鉄道のほうからはその部分は耐震がなされるにもかかわらず、阿久根市も協力してやるところですから別ですけど、そういった肥薩おれんじ鉄道からは何もないんでしょうか、お金のなものは。

花木企画調整課長

耐震補強を行った部分、改修を行った部分につきましては無償で財産を貸していただく形ではしておりますので、そこについては負担を求めることはしておりません。

出口徹裕委員

貸してもらってるんですかね。てっきり阿久根市のものになった部分があると思うんですが。

花木企画調整課長

財産につきましては、まず多目的スペース、駅務室を除いた分につきましては阿久根市に無償で譲渡をしていただきます。それから多目的スペースにつきましては補助金が入っている関係で譲渡、いわゆる財産の処分ができないということになりますので、この部分については無償で貸付を市が受けるということで、無償で貸していただくことになっております。

出口徹裕委員

そうした場合に、単純に貸してもらおうというけど、もともと肥薩おれんじ鉄道としては渡せない状態があるんだと思うんですけど、もともといらないところだっという考えになるんですかね。例えば、普通であれば、阿久根市であれば国民宿舎にしても手を入れてそれで貸し出しますよね。なのに肥薩おれんじ鉄道の場合については、阿久根市が補強までしてやって、それをまた借りる、無償だけど一応借りるということになるんですが、それでじゃあ返した場合は肥薩おれんじ鉄道はよかったよかったという話になるんですかね。

花木企画調整課長

改修は一体的に行うということで、お借りした財産を一体的に改修していくという形になると思うんですけども、これを返すという形というのが、あるのか、ないのか、それはちょっとわかりませんが、施設を整備する中ではやはり返すということはちょっと考えられないのかなと。お借りしてるものですから、返せと言われればそれは返さないといけないことがあるのかもしれませんが、そこらについてはですね、やはり今回の事業自体が、本会議でもありましたとおり、県の事業として肥薩おれんじ鉄道の支援いうのも一つは入っているところであります。ですから、市の活性というのが一番の事業ですけども、肥薩おれんじ鉄道の支援、それからそういうことに対して県も支援しますということで、肥薩おれんじ鉄道が負担するべき部分、本来はこのにぎわい交流ステーションにいただいている補助事業は地域推進事業の特別枠ですけども、本来は補助率が2分の1です。ところが今回、補助率を4分の3にさせていただいております。4分の1を上乗せさせていただいておりますけれども、この考え方はやはり2分の1は事業主体が補助すべき部分、残り2分の1は実施者が負担しなさいということで、実施者というのが阿久根市とおれんじ鉄道という考え方を県はもっております。そのうちの2分の1、いわゆる4分の1はおれんじ鉄道が出すべき部分を県で負担しますよという考え方で4分の3県が負担してると、そういう形になっておりますので、今回のこの事業につきまして、おれんじ鉄道の支援を行っていくという中で、やはり施設を整備したあとにいずれかの時点でまた施設を返してくださいということについては、そういうことがないように我々も協議をきちっと、お借りする段階ではしておきたいというふうに考えております。

出口徹裕委員

そういったようなことで、最初で私の聞きそびれかもしれないですけど、そういったようなことで2分の1がついてあるということであれば、前の段階ですよ、は了解します。今回議案が高いということで検討しなおして、お金を精査してですよ、下げてくるということだったんですが、実際、この議案で上がってくる前の段階の見込んでいた額はどれくらいで、どれくらい下がりましたか。

花木企画調整課長

正確な数字はなかなか厳しいところはあるんですけども、約5,000万ぐらいは下がったのではないかとこのように考えてます。

出口徹裕委員

何となくですね、先生たちとか有名なのはわかるんですけど、まかせっきりのような感じがしてですね、私、別にこの事業自体に反対してるわけではないです。この金額自体が突然大きくなったりとか、デザインが優先されすぎると極端にこういうふうな大きなものになっていくんですよ、金額的に。だから、そこについて、デザインを重視するところもある程度は大事かもしれないですけど、阿久根市としてここまでよ、この範囲でできませんかというこの話は1回ぐらいありましたかね、最初の段階で。

花木企画調整課長

それにつきましては、いわゆるデザインをお願いする段階、それから実施設計をお願いする段階、それぞれのところにはその枠はちゃんと話をしております。そして、今回、面積がふえたということがありますが、面積的にいきますと1.6倍ぐらいふえております。きょう、本会議の中でお話ししました当初に計上している工事請負費が約8,900万ほどございます。この面積的な増加の部分で案分をいたしますと、約1億4,200万ほどの額になってまいります。ですから面積要因での増という形で考えますと1億4,000万という形で事業費が膨らむということについては、やはりそういう要因があった中での増加のかなというふうに理解しているところです。枠についてはきちっと話はしております。

出口徹裕委員

それでは今回ふえてますけど、逆に進めていく中で減ってくるという可能性もあるって考えていいですか。例えばいろいろなところを検査したりとか、いろいろ補強しないといけ

ないからということにとらえてる予備的な部分があると。それがないというつもりで減る可能性があるという認識でいいですかね。

花木企画調整課長

当然、予算に基づき今後事業の発注に向けた設計を行います。市の設計方式に基づきまして。その段階でも予算枠の中で設計はなされると思いますけれども、当然それはそうなんです。入札段階でさらにまたさらに落ちる可能性があるんじゃないかというふうに考えております。ですから、我々としてはこの予算枠の中でこなせる形で今後は事業を進めていきたいというふうに考えているところです。

出口徹裕委員

ちょっと建物本体からはなれますけど、物品といいますか、販売台等がありますが、これもデザインにこだわったりとかすればかなりのものになってくるかと思うんですよね。普通に買えば安いものがちょっとしたデザインにこだわってくると高くなっていくとは思いますが、こういったような販売台等については、工事については先ほど議会の中でありましたけど、阿久根市の業者とかありましたが、この台とか、そういった建具関係ですね。特注になったりする場合もあると思いますよ、デザインの。そうした場合については、阿久根市の業者を使うということはしっかりと考えてもらえるんですかね。それともよそに投げて、そこが納めるからしょうがないねというふうになるのか、どちらですか。

花木企画調整課長

販売台につきましては、施設と統一したデザインで作成したいと考えておまして、デザインにつきましてはやはりこれも水戸岡氏にお願いするという形になると思います。作成につきましてはこれについてもたぶん水戸岡氏がかなり色と具材にこだわっておりますので、それが対応可能な業者ということになってくるんじゃないかというふうに考えております。

出口徹裕委員

阿久根市でもいろいろなところで建具をつくってたりとかというところがあると思うんですよね。できればそういうところにやはり頼んで欲しいという気持ちはあるんですよね。おかげのところは確かにあると思いますけど、じゃあ阿久根市の職人の人たちにそういう技術がないかという、逆にそういう先生、先生といったらあれですね。デザインする方がですね、指導すればまた阿久根市のそういう技術も伸びていくと思いますから、やっぱりそういうところについても意見はできると思うんですが。どうですか、やれますかね、そういうところまで意見をするというのは。

花木企画調整課長

それにつきましては、また今後検討をさせていただきたいというふうに考えます。

出口徹裕委員

そこについてはですね、今後ですね、いろいろな形でやはり建具とかああいうのについてもですね、いろんなところでどんどん仕事も減ってきているという話もいろいろ聞きますよ。ですから、そういう公共事業にでも少しでも投入できるような形でですね、そしてまたそういう方については、あのデザインは私がつくれたとか、幅も広がっていくわけですから、要望しておきます。お願いします。

岩崎健二委員

この工事は営業線近接工事に該当しますか。

花木企画調整課長

いわゆる鉄道事業というのは、丸特業者が対応できる分ということですね。そういう工事になります。

岩崎健二委員

さっきの本会議においても山田議員のほうから質問というか、市長へのお願いあったんですが、私の知る限り阿久根市の丸特業者、いわゆる丸特業者というのは1社だと認識しております。それで、その以外の県のAクラス、あるいはBクラスという方を指名に入れると

すれば、市外の丸特を持ってる業者とジョイント組んで指名願を出すという方法がとれるのかどうか。時間的なこともあります。そこらは財政課長、どうですか。

山下財政課長

御案内のとおり、市内の建築について資格を有している業者は1業者でございます。このことについては本会議でも市長も申し上げたところでございますが、一方、共同企業体の設置につきましては市の要綱では金額等が一定金額以上とおおむね定められております。この要綱の定めを踏まえながら、またどういう形で市内業者を活用していくことが可能であるのか。これらを総合的に検討して結果を得ていく必要があるのかなと思っております。現時点においてJVを組む、組まないについてはまだ言及できないところでございます。

岩崎健二委員

先ほどから出ておりますように、市内の業者の育成という、それから例えばこの営業線近接工事というのはなかなかある工事ではありません。資格をなかなかとれないという状況でもあります。こういう機会にぜひ市内の業者がそういう経験を積むといいますか、実績を積むという意味でも、技術者の技術の研鑽という意味でも非常に大事なことだと思いますので、ぜひそういう手を踏んでいけるようにしていただきたいと。また、今後、この駅舎だけではなくて、まだこれからたくさん出てくると思いますので、そこ等についてもぜひ検討をしていただきたいと思います。そして今回、できたらできたでいいんですが、万が一、どうしても手続上間に合わなかったとか、いろんな状況の中でできなかったというときはできなかった理由をぜひ議会のほうにも示していただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。要望で終わります。

仮屋園一徳委員

工事監理業務について伺いますけど、設計が延長されて10月までということなんですけど、この工事監理については設計をされた方ということではよろしいのでしょうか。

花木企画調整課長

実施設計につきましては工期が9月30日までというふうになっておりますが、工事監理業務につきましては、やはり設計を踏まえてのことになります。また、先ほども説明しましたが、補修する部分が出てきたときに、またここを速やかに、例えば構造検査をやりなおして設計をしなおすとかということもあるかもしれません。そういう場合に速やかに対応できる部分としては実施設計を行っている業者をお願いするというのが妥当かなというふうに考えております。

仮屋園一徳委員

今、言われましたので言いますが、随契ということで特別この工事監理のほうで入札をされるということはないということですね。

花木企画調整課長

そのように考えております。

仮屋園一徳委員

そこです、一つお願いがあるんですけど、先ほどもあったように丸特業者が必要というようなこともあって、その監理、監督をされるところがそういった、監督をされるわけですので、当然、そういった免許等も持っていらっしゃる技術者がいないとできないわけですので、その辺をばちゃんと審査をしていただくようお願いをしてこの件については終わります。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

木下孝行委員

たぶん、今回こういうような予算を追加したということは、当初計画で補助金が入っている部分があって、それを使えない状況があって当初の計画で予算を出してきたんだろうと思います。そういった中で設計をしていくうちに補強も必要である、また補助金で使えないも

のが使えるようになったというような、そんな流動的な部分も出てきて今回一遍にできるのであればやっつけてしまおうという形になったのかなというふうに私は想像するんですけども。今回8, 400万ですよ。これに対して耐震補強に幾らかかるのか、駐車場に幾らかかるのか。また今回補助金を今まで使えなかった部分に幾らぐらいかかるのか、また、その他、雑費といいますか含めて、その他はいいですけども。補強費に大体幾らかかるのか、駐車場に大体どの程度、今回建物内の今まで手をつけられなかった部分にどのくらいかかるのかかわれば教えてください。

花木企画調整課長

まず駐車場につきましては200万ほどを考えているところです。建物本体にかかる部分で、工種的にいろいろ出ておりますが、補強工事ということにつきまして、これについてはたぶん細かく分かれておりません、木工事というところから出されているものがございます。補強工事につきましてこの一部になってくるのかなというふうに考えております。建物の工種の中で一番大きなものはこの木工事で約1, 800万ほど占めておりますけれども、あとは電気設備、それから給排水衛生設備、空調設備、そういうものが大きなものとしてこの中に入っております、申しわけないんですが耐震補強にかかる経費という形での部分はこの資料の中ではちょっと把握できないところでございます。

木下孝行委員

今までおれんじ鉄道補助金を使った部分の食堂と駅舎の部分で、そこには工事を手をつけられなかったという状況だったけど、今回はそれができるようになったということで、その部分の、いわゆる今までそこは入ってなかったわけですよ。それが今回入るとということで、その部分の工事費は出てくるんじゃないですか。

花木企画調整課長

今回追加しました工事費につきましては、部分的なものをとらえてこれだけという形で出したのではなくて、いわゆる全体を整備する中で当初組まれていた予算に対して不足する部分を今回追加させていただいたという考え方です。

総務文教委員長（牟田学委員）

企画課長、今の資料でありますけど、駐車場が200万、建築が1, 800万、それはいただけませんか。

難しい。わかりました。

ほかにありませんか。

出口徹裕委員

今回ですね、気づいた点が、補足説明を企画課長が本当は市長のあとにされるべきだったと私は思ってるんですよ。というのが、今も木下議員から話がでましたけど、追加できるようになったからっていう話が出ましたけど、私、その話、一般質問したんで詳しく聞きましたよね。補助金を投入されててこうこういう理由で。やはりそこをですね、しっかりとやらないとあたかもできるようになったから、もともと計画としてはある程度したいなというところはあったと思うんですけど、それが補助金をもらっている関係でできなかったから、それがいろいろ打ち合わせをしたりとか交渉しているうちにできるようになりましたというその詳細をですね、議会なり委員会なりでしっかり言わないと、何か突然ぽんとわいてきたような話になってるんですよ。その説明をちゃんと知らないはずなので説明してください。

花木企画調整課長

今、御指摘のとおり駅舎を改修するにあたりましては、やはり一体的な整備というのが非常に効果大きいものというふうに考えております。当初におきましてやはり多目的スペースの部分、ここにつきましても何らかの形で改修できないかという考えはありました。その中でやはり、その部分については国庫補助事業を入れて整備したということで、補助金の執行の適正化に関する法律にやはり触れるということで補助金返納が生じるという問題がご

ざいまして、これについてはやはりここを除外して整備すべきだということで、当初、そういう考え方に落ち着いたところでございます。そういうことから県のほうへの申請についてもここを除外した形で補助金等の申請については行っておりましたが、本日、本会議でも説明しましたとおり、やはり耐震補強を行うについても、対象になっているこの部分だけを整備するというのではなく、やはり補強するからには一体的な建物として補強しないとだめですよということがございました。そういうことからやはり補助対象となっている部分についてもやはり一体的に整備して、より効果を高めるということが適正なものではないのかということがありまして、国土交通省に出向きました。そしてまた九州運輸局のほうにも交渉にまいりました。そういう形で多目的スペースが持っている機能、これを失うことなく、その機能を高めるための改修であるということを説明いたしまして納得していただきました。そういうことから補助金についても返納するに当たらない改修であるという判断をいただきまして改修ができる形になりました。そういうことから今回こういう形でその部分を改修して、より効果を高めると。いわゆる60何年ぶりに改修するについては、言葉は悪いんですが、半端に改修したんではやはりこちらの左半分を残したまま改修するよりもやはり一体的に改修していくほうが、あとあといろんところで、やはりなぜあそこが残ってしまったんだろうということになってしまいますので、より効果を高めるためにはそういう形で一体的な改修を行うことが、より適正なものであるという判断の上からこういう形で計画を進めてきたところでございます。

出口徹裕委員

了解です。了解ですというのが中身についてじゃなく、そういう説明をあそこでするべきなんですよね。ただぼんってふえましたと。そういう説明を今後何らかの形で。企画課は特にそういうのが多いですから、やっていただけたらと思います。要望します。

総務文教委員長（牟田学委員）

私から1件よろしいですか。ちなみに。

[発言する者あり]

じゃあ、よろしいです。いいです。

ほかにないですか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ議案第61号について質疑を終結いたします。

(企画調整課、財政課退室)

それでは議案第61号について、各委員の御意見を伺います。

木下孝行委員

今回の追加予算はですね、数字的にはかなり大きいものもございしますが、国と県で1億2,635万ですか、約60%ぐらいの補助率ということで、阿久根市のシンボルとして阿久根駅舎を改修するということは市民もかなり期待をしておりますし、当然、この予算は認めていいものだと私は思います。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

出口徹裕委員

駅舎改修についてはですね、私もいいとは思ってるんですが、この予算について比較検討とかが全くなされてない状態で、ほとんどが想定で高いだろう、安いだろう、詳しいことはわかりませんと。ある程度、ほとんど業者まかせ的なところが強すぎるので、私としてはこの追加にしてはちょっと大きいなという感じが、いいなりなのかなというところを思って反対したいなというところであります。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

岩崎健二委員

私はうみ・まちにぎわい通りの根幹をなすものであって、この最初の提案の中にもるる説明があり、皆さんも納得してやってきた経緯があろうかと思います。今、担当課の話もありましたとおり、国の補助事業を受けることができるようになったので追加するんだというようなことでありますので、全体的なことを考えたらこのまま私は執行していただきたい。1日も早い完成を目指して執行していただきたいと思います。以上です。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

ないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ議案第61号について討論に入ります。

出口徹裕委員

反対の立場で討論します。積算に当たりほとんどの資料がないということと、駅舎自体については私は反対しているものではありませんが、この金額について根拠等があまり示されてない、比較等がありませんのでこの追加についてはちょっと反対をします。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ討論を終結いたします。

それでは議案第61号、平成25年度阿久根市一般会計補正予算（第5号）を採決いたします。

ただいま、議題となっております議案第61号について、可決すべきものと決するに賛成の委員の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

挙手多数と認めます。

よって本案は可決すべきものと決しました。

以上で当委員会に付託されました案件はすべて議了しました。

ただいま採決されました案件に対する委員会審査報告書の作成及び委員長報告につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

以上で、総務文教委員会を散会いたします。

（閉 会 16時29分）

総務文教委員会委員長 牟 田 学